

悠久のナイルと人々

鈴木八司古代エジプトコレクション展

2011.11

東海大学附属図書館

東海大学文学部歴史学科考古学専攻

東海大学校地内遺跡調査団

東海大学情報技術センター

共催

悠久のナイルと人々

鈴木八司 古代エジプトコレクション展

Eternal Nile

The Ancient Egyptian Exhibition of
Late Professor Emeritus Hachishi Suzuki

—例 言—

1. 本書は、『悠久のナイルと人々—鈴木八司 古代エジプトコレクション展—』の展示図録である。
2. 展示会の会期は2011年11月1日～12月17日、会場は東海大学湘南校舎11号館図書館展示室である。
3. 展示会の企画・運営は下記の部署の共催による。
東海大学付属図書館・東海大学文学部歴史学科考古学専攻
東海大学校地内遺跡調査団・東海大学情報技術センター
4. 展示資料ならびに本書掲載資料は、故鈴木八司（東海大学名誉教授）が生前収集された考古学資料（写真資料を含む）および図書資料を、ご遺族を通じて東海大学に寄贈いただいたものの一部である。
5. 展示会および本書の監修は、山花京子（東海大学文学部非常勤教員）が行った。
6. 展示の構成は、時代を追うかたちを採った。また、資料解説については基本的に『遙かなるエジプト展—古代人の生活を探る』（鈴木1997）の記述に従い、山花が加筆した。
7. 写真資料については、立石廣康（東海大学情報技術センター）が加工・執筆を担当した。
8. 本書の編集・展示会の設営には秋田かな子・宮原俊一（東海大学校地内遺跡調査団）が当たった。
9. 展示会準備および会期中の解説員として、下記の学生・卒業生が参加した（50音順）。
石川桐子・内田優樹・河野正太・小嶋花々子・佐藤由浩
清水美里・鈴木菜央・道家 直・高橋ちひろ・竹野内恵太
田代恵美・富山貴央・野村隆道・長谷川英美・藤生彩乃
前久保圭太・松本良美・宮平理恵・森さつき・森 裕之
10. 本書に掲載した資料写真の著作権は東海大学が有する。無断転載を禁ずる。

参考・引用文献

- 鈴木八司 1997『遙かなるエジプト展—古代人の生活を探る』NHKプロモーション
- 山花京子 2010『古代エジプトの歴史—新王国時代からプトレマイオス朝時代まで』慶應義塾大学出版会

—目次—

例言	ii
展示にあたって	iv
展示企画の紹介	v
[考古資料編]	
I. 文明の曙—古代エジプト国家統一まで	3
鈴木コレクション デジタルアーカイブプロジェクト	
—東海大学情報技術センター	8
II. ピラミッドの時代とその後	10
III. 文明の華—新王国時代を中心に	13
IV. 開かれた世界へ—地中海文化の影響	23
V. 新たな躍動—イスラームと人々	27
[図書資料編]	
鈴木八司先生 主要著作	31
故 鈴木八司 東海大学名誉教授略歴	34

- Contents -	
Preface	ii
Keynotes	iv
Introduction	v
[Collection of Archaeological heritage]	
I. Dawn of Civilization - Path to the Unification	3
Suzuki Collection Digital Archive Project	
- Tokai University Research & Information Center (TRIC) —	8
II. Foundation of the Pharaonic Kingdoms	10
III. Blooming Society- New Kingdom Period and later	13
IV. Merging into the Mediterranean world	23
V. Reviving of people through Islam	27
[Library Collection]	
Major publications of Professor Emeritus Hachishi Suzuki	31
A sketch of Professor Emeritus Hachishi Suzuki's life	34

展示にあたって

鈴木八司先生の所蔵資料（図書資料約 6000 冊、考古資料約 4000 点）を 2010 年 6 月に東海大学が一括で譲り受けてから、1 年有余が経過しました。

先生の所蔵資料には、エジプト学研究にとって貴重な文献や考古資料が多く含まれております。奥様をはじめ御家族のご理解や、本学関係者の努力により散逸することなく東海大学に譲り受ける事が実現したことは大変喜ばしい事と思っております。皆様に心より感謝申し上げます。

先生はカイロ大学への留学、そして在カイロ日本国大使職員としての在籍を含め、1958 年から 1968 年の間エジプトに滞在されました。その時に収集された、1900 年創刊の機関誌「Annales du service de Antiquités de l'Égypte」などは、発行部数も少なく大変貴重な資料となっています。

今年の建学祭を期に、本学所蔵の「Description de l'Égypte」（ナポレオンエジプト誌）を含め、日本でも希少な資料と共に、先生の主要著書、翻訳書、編集・監修された図書を展示しております。

展示資料をご覧ください、いにしえのエジプトと鈴木八司先生の研究の息吹・足跡を直に感じて頂ければ幸いです。

2011 年 11 月 1 日

東海大学付属図書館
館 長 田中康夫

展示企画の紹介

鈴木八司先生のコレクションは古代エジプト関連の遺物を中心に中近東地域の広い範囲に及びますし、古代エジプト関連の資料だけをとってみても、旧石器時代の遺物から西暦16世紀のものまで多岐にわたります。その中から、今回の展示では古代エジプトに関する遺物をご覧頂きます。

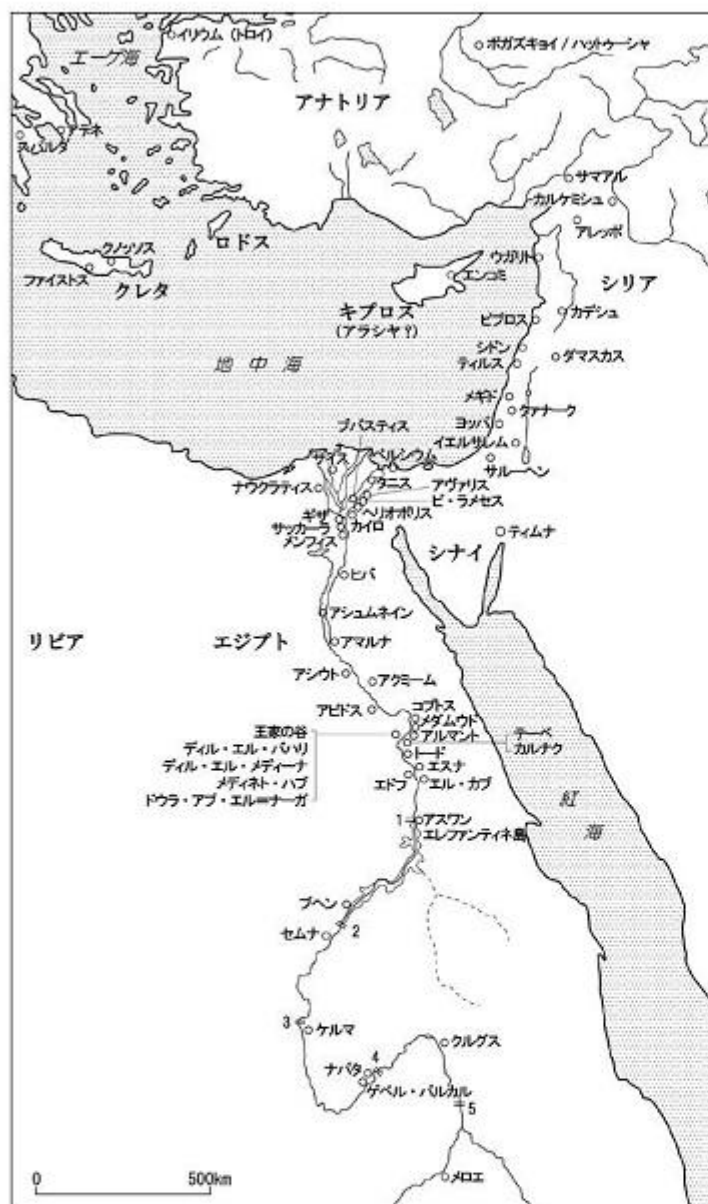
たとえば先王朝時代と呼ばれる時期の多数の土器や石器。また新王国時代の遺物としては、写実的で斬新な美術様式を誇ったアマルナ時代のレリーフがあります。

コレクションの全体を概観しますと、鈴木先生の資料収集には明確な意図があったことが読み取れます。一言で言えば、それは民衆の歴史に広く目を向けたものといえるでしょう。今回の展示でも、市井の人々の息づかいを汲みとれるような内容であることがおわかりいただけるものと思います。

こうした鈴木先生の収集資料・図書資料をみれば、東海大学がいかに貴重な歴史的資産を受け継ぐことになったかを改めて実感させられます。この資産を適切に保存し未来へと伝えると共に、今後の教育・研究に活用してゆくことが私達に課せられた使命だと考えます。

2011年11月1日

東海大学文学部歴史学科
考古学専攻
主 任 北 條 芳 隆

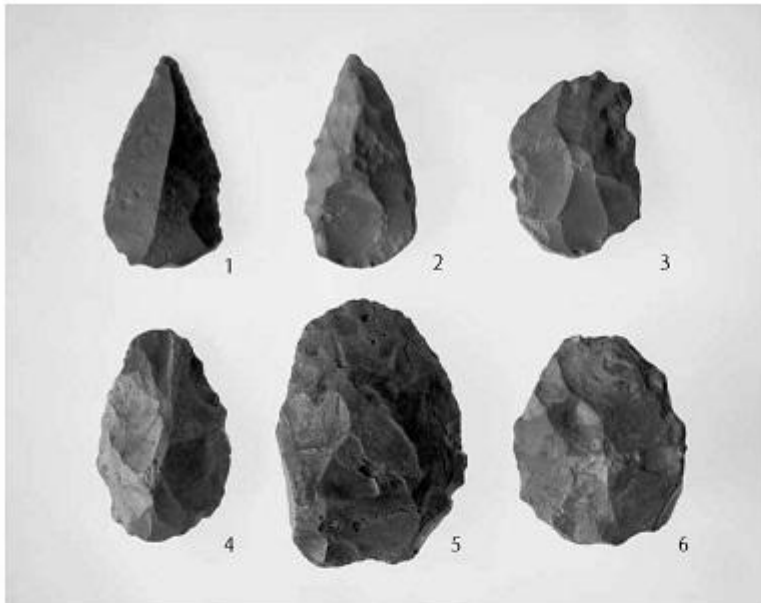


新王国時代の関連地図

時代区分と王朝区分 山花 2010 より

時代区分	王朝区分	推定年代
先王朝時代	ナカーダⅠ, Ⅱ, Ⅲ	6000 ~ 3000BC
初期王朝時代	第1 ~ 2 王朝	3000 ~ 2682BC
古王国時代	第3 ~ 6 王朝	2682 ~ 2322BC
第1 中間期	第7 ~ 11 王朝	2191 ~ 2025/20BC
中王国時代	第12 王朝	2025/20 ~ 1794/93BC
第2 中間期	第13 ~ 17 王朝	1794/93 ~ 1550BC
新王国時代	第18 ~ 20 王朝	1550 ~ 1070/69BC
第3 中間期	第21 ~ 25 王朝	1070/69 ~ 665BC
末期王朝時代	第26 ~ 31 王朝	664 ~ 332BC
ギリシア支配時代	マケドニア朝 ~ プトレマイオス朝	332 ~ 30BC
ローマ属国時代		30BC ~ 395AD

I. 文明の曙—古代エジプト国家統一まで



1 下部旧石器時代の石器セット

Stone tools of Lower Paleolithic period

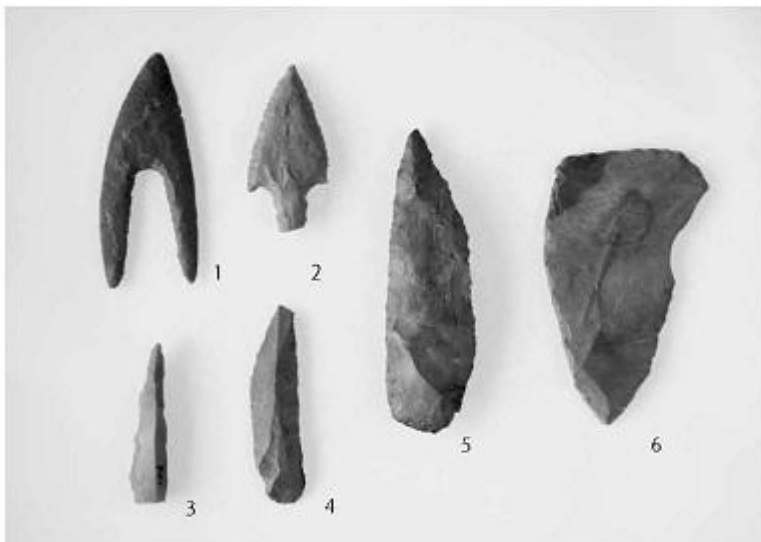
(下部旧石器時代末 20-10 万年前;
c.200,000-100,000 BP)

フリント, L7-10cm ダハシュール

1・2 尖頭器, 3. ルヴァロワ剥片, 4. ハンド・アックス,

5. クリーヴァー, 6. ルヴァロワ石核

尖頭器はルヴァロワ剥片の両側縁を加工して作ったもの。



2 新石器時代の石器セット Neolithic stone tools

(紀元前 4500-4000 年; c.4500-4000BC)

フリント, L4.2-8.7cm, ファイユーム採集

1・2. 石鏃, 3・4. 穿孔器, 5. 尖頭器, 6. ナイフ

逆V字形石鏃はファイユーム A 文化に特徴的な石器である。新石器時代とはいえ、狩猟も重要な仕事だったことを示している。

3 異形石器 Stone tool

(先王朝時代末期? 紀元前 3000 年頃;

Late Predynastic?, c.3000BC)

フリント, 17.5cm

角や木で石を叩いて作ったもの。刃にあたる下縁は摩耗していて光沢を帯びている。植物質のものを切るのに使ったのだろう。刃部の形から儀式に用いられた魚尾形石器の可能性もある。





4 赤色研磨黒頂土器 Black topped pottery (ナカーダⅠ; Naqada I)

H8.5-24 × D8.5-20 cm

よく研磨した土器表面に赤色化粧土をかけ、口縁部の黒色は炭素吸着による着色とされている。墓の副葬品として発見されることが多い。



5 彩文両耳付壺 Decorated pottery (ナカーダⅡ; Naqada II)

H14 × D11cm

スリッ表面にキャビンとマストを付けた船、フラミンゴ、動物などの絵画装飾を施す。マスト上の標章は4個の連続三角形。



6 彩文両耳付壺 Decorated pottery (ナカーダⅡ; Naqada II)

H13 × D19cm

ずんぐりした壺。平たい輪状の口縁、肩部に対象的に半円筒型の吊り把手が付く。スリッの表面に渦巻文と波線文を施す。器形、文様ともに石製容器の模倣とも説明される。



7 尖底長甕 Wine-jar? (第1王朝 紀元前3100-2890年頃; Dynasty 1)
H72 × D31cm 東部デルタ

同時期、同種の土器は、いずれも大型、尖底、表面をナイフなどで調整しウオッシュをかけるが、研磨はしていない。この種の土器はカイロ近郊では、サッカーラの第1王朝時代のマスタバやヘルワーンの墓から大量に出土したが、展示品の入手時にはデルタ東部からと聞いた。同地区の1980年代のミンシャト・アブ・オマルの調査結果からその可能性も考えられる。

8 粗製土器 Rough pottery

(初期王朝時代から古王国時代初期;
Early Dynastic to the first half of the Old Kingdom)

H12.8-29 × D5-9.6cm

口縁部以外は入念な成形がなされていない土器はビール壺とみなされており、初期王朝時代から古王国時代初期に大量に作られた。小型の壺は後の時代のもので用途不明。





9 波状把手付壺 Wavy-handled jar
(ナカーダⅡ; Naqada II)

H29 × D20cm

胴まわりのほぼ対象位置に水平の波状把手があるが、高さが若干異なる。上部から胴にかけて回転痕がある。波状把手土器はパレスティナからの影響であるが、器形は細くなり、エジプト化が認められる。



10 円筒形深鉢
Cylindrical jar with wavy decoration
(ナカーダⅢ; Naqada III)

H29 × D11cm

9～11の波状把手付壺の型式変化は、フリンダース・ピートリが唱えた「SD編年」法を組み立てる際の基準となった。



11 円筒形深鉢
Cylindrical jar with wavy decoration
and net pattern
(ナカーダⅢ; Naqada III)

H29 × D11cm



12 棍棒頭 Maceheads (ナカーダⅠ; Naqada I)

斑岩・閃緑岩, D2.7-9cm

刃部の鋭利な円盤型棍棒頭で、柄孔部を頂として円錐形の断面を持つ。硬くて重い閃緑岩は斑岩とともに円盤型棍棒頭材に最も多く用いられた。ただし小型のものは実用品ではなく、おそらく副葬品であろう。



13 首飾1連 Necklace

(初期王朝時代; Early Dynastic Period)

石, 総長 40cm

粘板岩, 石灰岩, メノウなどの類や碧玉を連ねた首飾り。1個だけ三角形の自然石がある。



14 パレット Palette

(ナカーダⅡ; Naqada II)

片岩, 19 × W15cm

ナカーダⅠ, Ⅱを通じて片岩製の化粧用パレットが普及したが、動物や鳥類、魚類の形を模したものも多い。本品はナイル河に多い魚 *Tilapia nilotica* (現地名ボルティ、古代名イエン) である。

15 パレット Palette

(ナカーダⅡ; Naqada II)

片岩, 124.5 × W16cm

外向きの双鳥の頭、羽の中央に孔があく。鳥の目は象眼。中央部に使用痕が見られる。この形式は比較的普及していた。



16 石皿 Plate

(初期王朝時代; Early Dynastic Period)

片岩, H3 × D22.5cm

精巧な技術で作られた初期王朝時代の典型的な皿であるが、工作技術の詳細は判っていない。



情報技術センターにおける画像処理

鈴木コレクションには写真フィルム、紙焼き写真、コプト裂（ぎれ）、パピルス文書などの2次元資料が多数含まれている。いずれの資料も劣化が激しく、一日も早い処理と保存が急務である。東海大学文学部歴史学科考古学専攻は情報技術センター（TRIC）と協力関係を結び、2011年度より総合研究機構プロジェクトとして鈴木コレクションのデジタル・アーカイブ化を進めている。残された資料を最良の状態に保ち、デジタル化して保存しておくことによって、資料の本来の色や形などを復元したり、破片状態のパピルスを画像上でつなぎ合わせることによって、古代社会の様相を文献学の立場から解明する手助けをすることもできる。

約15000枚の写真フィルム類には、日本が行った歴史的な国際貢献—ユネスコによるヌビア遺跡救済活動—の記録も収められており、アスワンハイダムが建設される以前のエジプトやスーダンの画像が残されている。現在では水没してしまった遺跡や、さらにヌビア遺跡の移築の様子、そして現代ではほとんど見ることができなくなった昔ながらの人々の暮らしと風俗を捉えた写真など、貴重な記録の宝庫である。これらのデジタル・アーカイブ化によって今後の古代エジプト研究ばかりではなく、風土、民俗、地勢、建築などの研究に役立つ情報を提供することが期待できる。

鈴木コレクションのデジタル・アーカイブ化に伴う処理に付いては、資料の保存状態の把握とアーカイブ方法等を定めるため、情報技術センターに於いて資料の一部、白黒・カラー写真フィルム、コプト裂、パピルス文字片のテスト処理を行い現在3年計画で進めている。

写真フィルムを除く資料は保存状態も良く救済処置等をほぼ必要とせずデジタル・アーカイブ処理を行う状態であるが、写真フィルム資料に関しては、保存状況、品質状態共に悪化が認められ早急に保存方法の改善と品質劣化救済処置を行った後にデジタル・アーカイブ処理を行う必要がある。

1. フィルム資料の現状

[カラー・白黒フィルム共通]

- ◇ 長期密閉状態に起因するベースフィルム加水分解による軽度のビネガーシンドロームが認められる
- ◇ カビによる深部乳剤層までの浸食劣化とそれに伴う画像品質の悪化が認められる

[カラーポジフィルム（カットマウント済）]

- ◇ 保存ケース・フォルダーのカビ・汚れ等の発生
- ◇ 軽度、重度の退色・変色が認められる

[白黒フィルム]

- ◇ 長巻ロール状態による強いカーリングとスクラッチを有する
- ◇ 保存環境における強い気温寒暖差と乾燥の繰り返しで乳剤亀裂を有する

2. 救済処置

① フィルムの救済処置

[カラー・白黒フィルム]

- ◇ ビネガーシンドロームの軽減・遅滞を目的とした室温23℃～28℃低湿度環境下での換気解放状態の維持保存（1ヶ月間以上）

[カラーポジフィルム（カットマウント済）]

- ◇ フィルムフォルダー・ケースの洗浄
- ◇ 非アルコール系クリーナーによるカビの除去
- ◇ エアークリーナーによるごみ等の除去

[白黒フィルム]

- ◇ 流水による洗浄とトリートメント乾燥
- ◇ 6カット切り中性紙フォルダーに収納保存

② デジタル・アーカイブ化

[コプト裂（ぎれ）・パピルス文書等反射資料]

入力データ：16bit RGB カラー

光学解像度 1200dpi

[35ミリカラーポジフィルム透過資料]

入力データ：16bit RGB カラー

光学解像度 4800dpi

[ブローニー6×7白黒・カラーポジフィルム透過資料]

入力データ：16bit RGB カラー

光学解像度 6400dpi

[35ミリ白黒ネガフィルム透過資料]

入力データ：16bit モノカラー

光学解像度 6400dpi

[その他の資料]

3. デジタル・アーカイブ化に必要とされる画像処理

カラー画像の退色・変色に対する色再現救済処理を主にスキャン画像鮮明化処理プロセスの構築を行う。

鈴木コレクション デジタルアーカイブ化処理

反射資料

コプト製
パピルス文書
文献・地図等



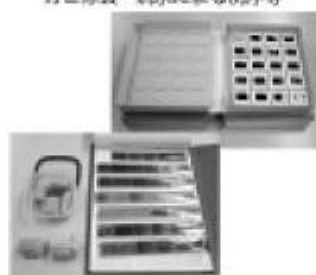
エアークリーナー・筆
などでホコリ等を除去

透過資料

カラーポジフィルム
白黒ネガフィルム



保存ケース・フォルダーの洗浄
ビネガーシンドロームの軽減
遮光処理（1ヶ月間以上）
カビ除去・流水による洗浄等



スキャナーによるデジタル画像化



画像データファイル整理と
インデックスファイル作成



色再現処理
鮮明化処理

元画像・処理画像データ
バックアップメディアへ保存

復元・鮮明化処理



元画像

鮮明化処理画像



元画像

鮮明化処理画像



元画像

色再現・鮮明化処理画像



元画像



鮮明化処理画像



元画像

色再現・鮮明化処理画像



II. ピラミッドの時代とその後



17 タイル Tiles (第3王朝; Old Kingdom, Dynasty 3)

ファイアンス, L6 × W4cm, サッカーラ

長方形, 施釉した表面はわずかな曲面をなす。胎は緻密な白色, 裏面には矩形の突起があり穴が通る。数片重ねて漆喰地にはめ込んだ。サッカーラのジェセル王の階段ピラミッドの地下回廊の壁面装飾に用いられたタイルは総数 36000 個に達するという。



18 碑文断片 Tomb relief (古王国時代 第4または第5王朝; Old Kingdom, Dynasty 4 or 5)

白色石灰岩, H17.5 × W33cm

典型的な古王国時代の供養文の一部で, 死者が祠堂 (の前のアヌビス神に対し) 墓を (与えられることを) 願っている。おそらくマスタバの礼拝堂の壁面の一部であろう。



19 カップ形石製容器

Ointment vessel

(古王国～中王国時代；

Old Kingdom to Middle Kingdom)

アラバスター、H12 × D8.5cm

乳白色、半透明のカップで、器壁は胴の中程で約3mm。

20 カップ形石製容器

Ointment vessel

(初期王朝～古王国時代；

Early Dynastic Period to Old Kingdom)

硬質石灰岩、H13.5 × D10cm

胴は厚く、重量がある。補修の痕跡があるが、古代のものか最近のものか、未確認である。



21 供物盆 Offering basin

(第1中間期～中王国時代；

1st Intermediate Period to Middle Kingdom)

テラコッタ、L35 × W25cm

アシュート付近以南で出土する。おそらく石製品の代用。



22 黒色研磨碗

Black polished white cross-lined ware

(C 群民時代 紀元前 1950-1550 年頃；

C-Group, c. 1950-1550BC)

H9 × D11cm

表面に不整格子形の刻文帯を施し、白色顔料を詰める。器体は薄く(4mm)軽い。上エジプトのいわゆる Pan-Grave、およびヌビアで出土する。

23 山羊型土器 Figured pottery

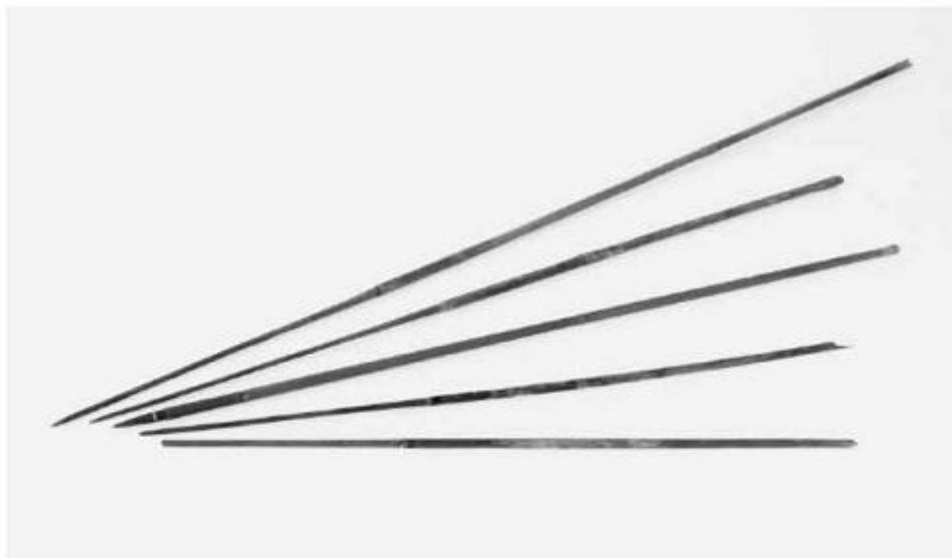
(第1中間期または中王国時代？；

1st Intermediate Period or Middle Kingdom?)

L11.8 × H6.7cm

肩口に注口を持つ容器で、頸部は写実的な山羊。四肢は腹部に浮彫りで表現している。類例が殆どないので、時代決定は困難である。





24 葦矢 Arrowshafts with arrowheads

(おそらく中王国時代; probably Middle Kingdom)

最大で84cm

矢柄は葦製、矢ハズを工作し、本例では羽をつけない。鏃は約25cmの硬く尖った木製。全体が軽いので武器ではなく射鳥用か儀式用であろう。



26 儀式用鎌身 Ceremonial sickle

(中王国時代以降; Middle Kingdom or later)

木, L29cm

三日月形に湾曲した内側の溝にフリントを装着したらしい。柄頭はガゼレの頭がつき、儀式用であろう。伝統的なエジプトの鎌と様式が異なり、類例が見当たらない。

25 弓 Bow (おそらく中王国時代;
probably Middle Kingdom)

雑?, L156cm

丸木の直弓の長弓。ハズの部分は細いが、ニギリの部分に特別の工作はしていない単純な弓である。弦には動物の内臓を乾燥し熱った紐を使用した。

III. 文明の華—新王国時代を中心に



27 墓軒裝飾コーン Terracotta cone

(新王国時代; New Kingdom)

テラコッタ, 型銘, D7 × L12cm

前面の平坦部に供養文と願主名を含む銘が型押しされている。本品は侍従長 (imy-r ahenewty) のアメン・エム・オベトのもの。

28 墓軒裝飾コーン Terracotta cone

(新王国時代; New Kingdom)

テラコッタ, 型銘, D7 × L11cm

アメン・レー神の金工師 (nebien Amen-Re¹) のアメン・エム・ヘトのもので、珍しく角錐。工人の握った跡がある。18王朝初期。



29 石製化粧用小壺 Cosmetic vessels

(新王国時代とそれ以降; Various Dates)

アラバスター, H2.3-5.5 × D2.8-6.3cm

アラバスター製の小壺で、主にコホル（アイシャドー）を入れたと考えられる。さまざまな器形があり、新王国時代を中心として前後のものと思われる。



30 石皿 Stone vessel (新王国時代; New Kingdom)

滑石, H3.9 × D9.7cm

口縁部に鋸歯文を施し、内面をロータス華文で飾る。裏側の工作は粗雑である。



31 パレットまたは化粧用小皿

Cosmetic palette

(新王国時代; New Kingdom)

滑石, L11.4 × W7cm

アヒルの首と頭4個を長円形の皿の縁部に配した化粧具。バランス感と雅趣に富んだ小品である。類例は多い。



32 トトメスIV世浮彫
Relief with the name of Thutmose IV
(第18王朝トトメスIV世時代; New Kingdom)
石灰岩, H42.5 × W42cm
銘の内容から、トトメスIV世がメンフィスに
建てた即位記念かセド祭の際に建てた祀堂の
部分とも考えられる。



33 棺蓋 Coffin lid
(末期王朝時代; Late Period)
木に漆喰・彩色, 木, H49 × W30cm
整形の一部に泥土を利用した粗雑な造り。頭上に再生の象徴
であるスカラブを置くのは第22王朝頃に出現するといわれ
る。保存のため人口樹脂を塗布した。



34 銘板 A part of a coffin lid
(第3中間期頃? ; 3rd Intermediate Period?)
木, 53.5 × W15.5cm
木棺の部分であろうか。銘によると主婦 (nebet-per) のチエ
ケレルを供養するもの。



35 イシス女神の結び目を持つ手

A hand holding an Isis-knot

(新王国時代後期; Later New Kingdom)

木, 彩色, H13.5 × L19cm

人型棺の上蓋の表面で組んだ両手のうち右手, イシス女神の結び目ティト護符を持つ。左手はオシリス神のジェド柱を持っていたはずである。『死者の書』第156章には, イシス女神の血の色の護符(赤色碧玉)を置くよう述べられている。



36 ターウェレット夫人のシャブティ

Shabti of lady Taweret

(新王国時代後期; Later New Kingdom)

石灰岩, 彩色, H22 × W7.5cm

銘の帯には石棺につける場合に類似し, シャブティに直接施すのは一般的ではない。背中の籠(土を運ぶ入れ物)も特殊である。銘が薄れていて詳細は判らない。



37 カノボス容器蓋 Lid of a canopic jar

(新王国時代後期; Later New Kingdom)

テラコッタ, 彩色, H13 × D12cm

38の展示品に比較してかつらが広がらない。

38 カノボス容器蓋 Lid of a canopic jar

(新王国時代後期・第3中間期;

Later New Kingdom to 3rd Intermediate Period)

テラコッタ, 彩色, H13 × D14cm

カノボス容器の蓋はホルス神の子の4神の守護を受け, 蓋に4神の頭部がつけられる。人間はイメセティ神で, 死者自身の肖像である可能性はある。





39 奉獻碑断片 Offering stela fragment

(新王国時代: New Kingdom)

アラバスター, H11 × W15.5cm

施主の彫刻や火の表現方法などから、ポスト・アマルナ時代のもものと推測できる。被葬者クヌムエムハトへの奉獻碑である。



40 分銅? Weight?

(第19王朝: New Kingdom, Dynasty 19)

花崗岩, H12.5 × W10, L6cm

表面にラメセスⅡ世のカルトウシェウ銘を付け、基部の一部が盛り上がり、異形の分銅とも思える石製品で重量は1860g。



41 セティⅠ世銘の砦
Wedge of Seti I

(セティⅠ世 第19王朝時代:
New Kingdom, Dynasty 19)

花崗岩, L17 × W36.5cm

大型の石材を連結する建築用具で、双方の石材に溝をうがち、埋着した。セティⅠ世のこの銘はアビドスのケノターフの建築時から用いられたので、本作品は同地の大神殿の建築用であった可能性が高い。



42 オストラカ Ostraca (新王国時代末期: Later New Kingdom)

石灰岩破片 H19 × W14cm

古代エジプトでは、パピルスは筆記具としては高価だったので、学習やメモ用には安価な石や土器の破片が利用された。ここに示した例は破片の両面を利用している。



43 供献台脚部 Offering stand of Thutmose III

(第18王朝トトメス三世時代; New Kingdom, Dynasty 18)

花崗岩, H59.5 × W34cm

トトメス三世がカルナックのアメン神殿の東端に建てたセド祭の祝祭殿の完成記念儀式に用いられた供献台の脚の部分で、上部は欠損。このアメン神名はその痕跡からアクエンアテン王時代に削除されたが、のちに修復されたことが判る。



44 供物台 Offering table

(新王国時代後期 第19-20王朝; Later New Kingdom, Dynasties 19-20)

石灰岩, H35 × W50.5cm, L5cm

供物台の主は職工たちの職長ネフェルセケルウである。横長の矩形の上辺に突起がつき、台全体が目的に相応しい「ヘテブ」型をなす。四辺に銘文帯を巡らし、中央に供物類、その両側に水盆の窪みが配置されている。



45 アメン・パ・ネフェルの奉納像 Offering statue

(新王国時代後期; Later New Kingdom)

花崗岩, H35cm

アメン神殿のパン工房監督官アメン・パ・ネフェルがハラクティ神に捧げた彫刻で、全体がホルス神の聖鳥の形をした珍しい彫刻である。銘によると像主の父ネブウネブも同じ職にあった。



46 キプロス土器
Cypriot flask

(新王国時代前半期;
First half of New Kingdom)

H13 × D8.3 cm

同心円状の文様を施したフラスコはキプロス産で、エジプトには交易によってもたらされたと考えられている。



49 サンドル Sandal

(新王国時代後期以降: New Kingdom or later)

ナツメヤシの葉?。L31 × W9cm



47 鉢片 Falence bowl fragments

(新王国時代前期; Early New Kingdom)

比較的厚手で花卉文や魚文が描かれたファイアンス鉢は第18王朝前半期に儀式用の祭器として作られていたようだ。



50 人形 Dolls

(新王国時代-コプト時代: New Kingdom or later)

やしの葉、布、粘土など。L110cm, 2121.5cm

身辺にある材料を使い、稚拙な手法で作られた簡単な幼児用の人形玩具らしい。同類の物は数少なく、庶民のものは時代決定が難しい。



48 鉢 Falence bowl

(中王国時代後期;

Later Middle Kingdom)

ファイアンス。H5.9 × D13.4cm

淡青色の釉をかけた浅鉢。口縁部外側に黒色の平行線と三角形の幾何文を付ける。文様は一般的でなく、出土例ではスーダンのケルマ出土の破片がある。

51 植物性編み物類 Baskets etc.

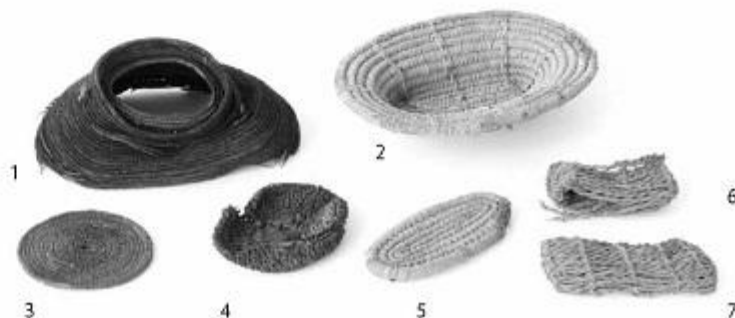
(新王国時代以降: New Kingdom or later)

ナツメヤシや禾本科植物(ハルファ・グラス)の葉など

1.W26cm, 2.W30cm, 3.W16cm, 4.W14cm,

5.W17cm, 6.W12.5cm, 7.W16cm

下敷、ボシエット、皿、容器とその蓋などの日常用具類。





52 人物像頭部 Head of a human figurine
(新王国時代; New Kingdom)

凍石?, H3.8 × W4.8cm

小型の人物像の断片。カツラの形より、新王国時代前半期のものと思われる。



53 人面 Face, a part of a composite statue
(第3中間期以降;
3rd Intermediate Period or Later)

木, H7 × W6.3cm

唇と眼は他の材料で象嵌。顎下にひげの痕跡がある。面自体は他の材料で作った頭部に装着したのであろう。



54 人物頭部 Human head
(第3中間期 第25-6王朝
3rd Intermediate Period, Dynasties 25-6)

玄武岩, H5cm

典型的な馬鈴薯頭の頭部で、後部に背柱の一部がついている。



55 指輪 Rings (新王国時代およびそれ以降; New Kingdom)

1. ファイアンス製。アクエンアテン王の名 Akh-en-Aten の銘がある。第18王朝、アクエンアテン王時代。おそらくアマルナ出土。
2. ファイアンス製。アクエンアテン王の即位名 Nefer-kheperu-Re 'Wa-en-Re' の銘がある。アクエンアテン王時代。おそらくアマルナ出土。
3. 凍石製。満月と三日月を乗せた船の装飾がある。



56 護符 Amulets

(新王国時代末期 - 末期王朝時代; Later New Kingdom - Late Period)

ファイアンス, H1.5-2.3cm

1. 葡萄の房。おそらくワインとその再生性を願ったもの。
2. 鱈。豊饒を願ったものか。
3. おそらく耳の祈願碑と同じく、神に祈願が聞かれるのを願ったもの。



57 スカラブ Scarab amulets

(第2中間期以降;
2nd Intermediate Period or Later)

ファイアンス, 石, 象牙など, L0.65-1.8cm

スカラブは護符として使われることが多いが、銘の王名と必ずしも同時代とは限らない。



58 ガラス容器片 Core formed glass vessels

(新王国時代以降: New Kingdom or later)

「コア技法」によるガラス容器の破片で、大部分が色ガラス細線の垂網文を示し、コア抜き痕跡がある。

59 首飾 1 連 Necklace

(第 25 王朝時代:

3rd Intermediate Period, Dynasty 25)

硫黄。総長 40cm

牛頭やロゼット形の硫黄製ビーズを連ねた首飾り。素材はおもに紅海地方やカイロ近郊のヘルワーンで産出した。類例は少ない。



60 ホルス神の眼 Udjat amulets

(第 3 中間期以降: 3rd Intermediate Period or later)

ファイアンス、W1.1-3.2cm

完璧な状態を象徴する聖眼で、ジェド柱やスカラブ、アଙ୍କとともに最も普及した護符。『死者の書』第 167 章により、ミイラに装着すべきものとされる。

61 護符作りの型 Amulet molds

(新王国時代以降: New Kingdom or later)

テラコッタ、L3.2-5.4cm

護符類のファイアンスの母型。





62 浮彫習作 Profile of a man

(第18王朝アクエンアテン王時代; New Kingdom, Dynasty 18)

砂岩?, H13.5 × W8cm

デフォルメされた顔の輪郭と特徴的なカツラによってアマルナ時代のものと推測できる。



63 浮彫習作 Profile of a man

(第18王朝アクエンアテン王時代; New Kingdom, Dynasty 18)

結晶性砂岩, H21 × W34.5cm

男性のプロフィール, おそらく習作であろう。いわゆるアマルナ美術として様式的には申し分ないのだが、真贋の議論の余地は大いにある。



64 アマルナ浮彫断片 Relief fragment

(第18王朝; New Kingdom, Dynasty 18)

石灰岩, H21 × W16cm

国王の指先と女王の下半身。王女の体や衣服のひだの表現にアマルナ美術の特徴がよく見られる。岩質は粗く、他の事例から、ヘルモポリス・マダナ出土であろう。



65 青色彩文土器片 Blue-painted vessel fragments

(第18王朝初期-中期; Early to Middle New Kingdom)

エジプトの土器は素焼きで無文のものが多く、第18王朝の前半期には青、白、赤などで彩色された大型の土器が主に祭器として使われた。



66 アクエンアテン王浮彫 Relief of a King Akhenaten (第18王朝, New Kingdom, Dynasty 18)

石灰岩, H22 × W36.5cm

アマルナ時代中期以降の典型的なアクエンアテン王のプロフィール。岩質は脆弱である。



67 円柱部分？ A part of a column (第18王朝, New Kingdom, Dynasty 18)

石灰岩, H21 × W37.5cm

湾曲した表面から円柱の部分だと思われる。銘はアテン神の賛美で、カルトウシュ中のアテン神名の表記法から、アクエンアテン王の治世後半期のものである。

IV. 開かれた世界へー地中海文化の影響



68 武器類 Weapons

(新王国～末期王朝時代; New Kingdom to Late Period)

青銅?, L3.1-19.8cm

槍先、矛先、鉄、鍔、ナイフなどの武器、および道具類。



69 枕モデル Model headrest

(末期王朝時代; Late Period)

アラバスター, L12.7 × H7.8cm

『死者の書』第166章によると、枕形の魔符をミイラに接して置くことにより、死者の安全と再生が保証されるとされている。



70 銘入り石製容器 Votive bowl

(末期王朝時代 第26王朝?; Late Period, Dynasty 26?)

黒色花崗岩, H14 × D19cm

祈願主(名欠損。母の名はヘヌウト)がシェディト(ファイユーム)のソベク、ホルス両神に祈願したもの。ネイト女神は両神の母および守護者。銘文は擬古的である。



72 パピルス片 Papyrus fragment

(おそらくプトレマイオス朝; probably Ptolemaic Period)

H27 × W21cm

本コレクションには約400片にのぼるパピルスがあり、宗教文書や行政文書、そして動物ミイラの包み紙として転用されたものまである。



71 手枷(てかせ)あるいは家具の一部

Handcuff or a part of wooden furniture

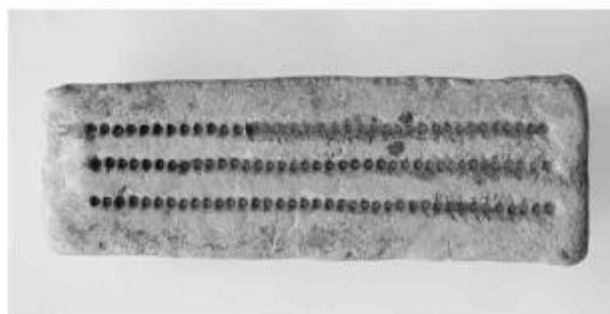
(末期王朝時代?; Late Period?)

L12 × H8cm

正面はライオンが黒人の頭に噛みつく彫刻が施されている。



73 ガラスビーズ Glass beads
(末期王朝時代/プトレマイオス時代;
Late or Ptolemaic Period)
ガラス、ファイアンス, 1.0.5-1.3cm
モザイクガラス製のトンボ玉, ソロバン玉, 中空の
ファイアンスビーズなど。



74 ガラスビーズ鋳型 Mold for glass beads
(ローマ属領時代? ; Roman Period?)
石灰岩, L12.3 × W4.3cm
ガラスビーズの製法は, 初期の段階では細線の巻付法であったといわれて
いるので, 型を使用したのは比較的后代ではないかと思われる。



75 ネブティ (二女神) 浮彫 Relief of Nebwti goddesses
(末期王朝時代; Late Period)
珪岩, H23 × W30cm
上エジプトのネクベト (禿ワシ) と下エジプトのワジェト (コ
ブラ) の2守護女神を並列したネブティは, 国王の称号のひ
とつである。おそらく彫刻師のモデルであろう。

76 ハトホル柱彫刻モデル Hathor column model
(末期王朝~プトレマイオス王朝時代; Late to Ptolemaic Period)
石灰岩, H27.5 × D12.5cm
均質緻密かつ柔らかい石灰岩製で, 浮彫や彫刻の手本であった。
図像のプロポーションの基本線, 素形, 鑿の方向などが示され
ている。



77 モザイク・ガラス素材 Glass bars for mosaic decoration
(末期王朝時代以降: Late Period and later)
「金太郎船」の要領で作るモザイクガラスの素材。これらを利用してモザイク装飾ガラスを制作した。



78 髭のある顔の象嵌玉 Mosaic glass
(プトレマイオス王朝時代 - ローマ属領時代初期:
Ptolemaic to Early Roman Period)
ガラス, D0.7cm
この小粒はモザイク製作過程に偶然できた可能性がある。



79 ヘリシェフ神 Statuette of Herishef
(末期王朝 - プトレマイオス王朝時代:
Late to Ptolemaic Period)
珽岩, L10 × H3cm
類例は希少。通常はラピスラズリなどで作られる。4頭の意味は不明だが四神の混沌または太陽神の四態などと説明される。崇拜の中心はヘレモポリス。



80 突起状装飾付土器 Barbotine ware
(ローマ属領時代: Roman Period)
障手の土器にメレンゲ細工のような突起を付けた特殊な装飾土器。東地中海沿岸で制作されたものがエジプトへもたらされている。この装飾技法で植物文などをアップリケした土器が紀元後2世紀頃出回った。



81 ガラス器片 Glass fragments
(ローマ属領時代 - イスラム時代:
Roman to Islamic Period)
紀元前後に「吹きガラス」が発明されて以降、ガラス器の値段が大幅に下落し、庶民にも手が届くものとなった。写真の容器片は主に「ランプ」であったと考えられ、現在でもモスクで使われているランプの原型である。



82 ホルス神の眼を捧持するヒヒ

Statue of a baboon holding an udjat-eye

(末期王朝・プトレマイオス王朝時代; Late Period to Ptolemaic Period)

木, 彩色, H27 × W9cm

ヒヒは智神トトの聖獣。崇拜の中心地は中エジプトのヘルモポリス・マグナ(トゥナ)。姿を隠した太陽神の片眼を贖得する役をもっていた。おそらくトゥナ出土。一部銅製。



83 カノボス容器箱 Canopic chest

(プトレマイオス王朝・ローマ属領時代; Ptolemaic to Roman)

木, 彩色, H44 × W25, L30cm

下エジプトのプトの祠堂型の箱で、蓋を縛るノブがついている。四側面にはそれぞれカノボス容器の4守護神の名が記されている。材木はシカモア樹らしく、木目が粗い。

V. 新たなる躍動—イスラームと人々



84 櫛 Wooden comb

(時代不詳; Date unidentified)

木, L12.5 × W15.2cm

両面に歯のある櫛。四足獣が耳の長い動物（ウサギ?）を咬む様子が透かし彫りで表現されている。



85 カットガラス小壺 Cut-glass vessel

(紀元後 4-6 世紀; 4th-6th Century AD)

H7.9 × D6cm

紀元後 4-6 世紀のイランで生産されていたササーンガラスの典型的なカットが施されている。



86 ガラス製腕輪 Glass bangles

(年代不詳; Date unidentified)

H12.5 × W 15.2cm, フススタート出土

フススタートは紀元後 8-12 世紀に栄えた町イスラーム時代になるとツイスト文やモザイク文、貼付け文、そしてカット面のある色とりどりの腕輪が制作された。

87 輸入磁器

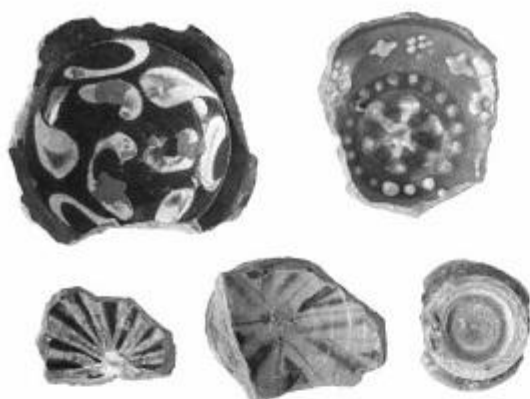
Imported porcelain fragments

(年代不詳; Date unidentified)

おそらくフススタート出土

紀元後 10 世紀頃からエジプトには中国陶磁が大量に流入する。中国からの青磁や白磁などは比較的質の高いものから廉価品までさまざまであった。コレクションの中にはエジプトで作られた模倣品もあるようだ。





88 陶器片 Glazed pottery fragments

(紀元後 14 世紀頃; 14th Century AD)

アイザーブ東丘出土

アイザーブは紅海沿岸の商業都市で、紀元後 10-14 世紀頃が最盛期であった。これらの陶器は 14 世紀頃のものと考えられる。



89 陶器 Islamic pottery

(紀元後 13 世紀頃?; 13th Century AD?)

H3-13.8 × D9.5-13.2cm

緑釉の鉢には「Faishut 出土 XIIIc?」という注記が付けられている。マムルーク朝初期のものか。



90 ラスター彩陶器 Lusterware fragments

(年代不詳; Date unidentified)

フスタート出土

金属光沢をもつ釉薬を使った陶器。9 世紀頃から作られ始め、12 世紀頃が全盛期である。



91 染付磁器片 Porcelain fragments

(紀元後 15 世紀以降; 15th Century AD or later)

KQM という注記があり、ペルシア湾岸の遺跡からの出土遺物である可能性がある。景徳鎮の明中期以降のものと考えられる。



ギザにて (1993 年)

鈴木八司先生 主要著作

【著書】

1. ツタンカーメン展
朝日新聞社 1965 年
119p 23cm
2. ナイルに沈む歴史：ヌビア人と古代遺跡
岩波書店 1970 年
217p 18cm
3. 王と神とナイル（沈黙の世界史 2）
新潮社 1970 年
338p 20cm
4. 大いなるエジプト
平凡社 1973 年
95p 35cm
5. エジプト（世界彫刻美術全集 3）
小学館 1975 年
175p 43cm
6. ナイルと王のエジプト（新潮古代美術館 3）
新潮社 1980 年
142p 31cm
7. 西アジア：中東の現状を理解するために
旺文社 1981 年
150p 21cm
8. 聖都テーベ
講談社 1982 年
51p 33cm
9. 古代エジプトへの旅（岩波グラフィックス 19）
岩波書店 1983 年
80p 22cm
10. エジプト（読んで旅する世界の歴史と文化）
新潮社 1996 年
385p 20cm

11. 遙かなるエジプト展：古代人の生活を探る
NHK プロモーション c1997
81p 29cm

【翻訳】

12. ピラミッド：巨大な王墓建設の謎を解く / デビッド・マコーレイ作
岩波書店 1979 年
87p 31cm
13. エジプト：驚異の古代文明 / アルベルト・シリオートイ [著]
新潮社 1995 年
291p 37cm

【編著・監修作品】

14. エジプトとオリエントの美術（グランド世界美術 2）
講談社 1977 年
147p 41cm
15. オランダ国立ライデン古代博物館所蔵古代エジプト展：Life and death under the pharaohs / 東京新聞編
大塚巧藝社（制作） c1996
261p 26cm
16. ピラミッド：時間を超越したピラミッドの偉大さを探訪する / James Putnam 著 鈴木麻穂訳（ビジュアル博物館 第 53 巻）
同朋舎出版 1995 年
63p 29cm
17. ミイラ解体：「王家の谷」造営職人長ホルエムケニシの生涯と死 / ジョン・H・テラー著 鈴木麻穂訳（大英博物館双書 古代エジプトを知る 1）
学芸書林 1999 年
147p 19cm

18. パピルス：偉大なる発明，その製造から使用法まで / リチャード・パーキンソン，スティーヴン・クワーク著 近藤二郎訳（大英博物館双書 古代エジプトを知る 2）
学藝書林 1999 年
152p 19cm
19. 病と風土：古代の慢性病・疫病と日常生活 / ジョイス・ファイラー著 内田杉彦訳（大英博物館双書 古代エジプトを知る 3）
学藝書林 1999 年
163p 19cm
20. 船とナイル：古代の旅・運搬・信仰 / デイルウィン・ジョーンズ著 嶺岸維津子，宮原俊一訳（大英博物館双書 古代エジプトを知る 4）
学藝書林 1999 年
143p 19cm
21. ピラミッド事典 / ジェームズ・パトナム著鈴木麻穂訳
あすなろ書房 2005 年
63p 29cm
22. Description de l'Égypte : ou, Recueil de observations et des recherches qui ont été faites en Égypte pendant l'expédition de l'armée française / publié par les ordres de Sa Majesté l'empereur Napoléon le Grand
Paris Imprimerie impériale 1828
108 leaves (all ill) 112 cm
23. La carrière administrative de deux hauts fonctionnaires égyptiens vers la fin de la IIIe dynastie (environ 4500 ans avant Jésus-Christ) et les quatre noms officiels de roi d'Égypte / G. Maspero
Paris Imprimerie nationale 1890
176p 28cm
24. Einleitung und Commentar. Mit 12 Lichtdrucktafeln / Herausgegeben von Adolf Erman (Königliche Museen zu Berlin. Mittheilungen aus den orientalischen Sammlungen 5 ; Die Märchen des Papyrus Westcar 1)
Berlin W. Spemann 1890
72p 36cm
25. Glossar, palaeographische Bemerkungen und Feststellung des Textes / Herausgegeben von Adolf Erman (Königliche Museen zu Berlin. Mittheilungen aus den orientalischen Sammlungen 6 ; Die Märchen des Papyrus Westcar 2)
Berlin W. Spemann 1890
84p 36cm
26. The monuments of upper Egypt / Auguste Mariette-Bey a translation by Alphonse Mariette
Boston J. H. Mansfield & J. W. Dearborn 1890
335p 19cm
27. Essai de reconstitution topographique de la ville d'al Foustât ou Miṣr / par m. Paul Casanova (Mémoires publiés par les membres de l'Institut français d'archéologie orientale du Caire Tome.35)
Saint-Cloud l'orientaliste 1913
110p 27cm
28. Im Herzen von Afrika : Reisen und Entdeckungen im zentralen Äquatorial-Afrika während der Jahre 1868 - 1871 : ein Beitrag zur Entdeckungsgeschichte von Afrika / von Georg Schweinfurth
Leipzig Brockhaus 1922
578p 30cm

【鈴木先生が研究の参考に使われた洋書】

-
29. Recueil d'études égyptologiques dédiées à la mémoire de Jean-François Champollion à l'occasion du centenaire de la lettre à M. Dacier relative à l'alphabet des hiéroglyphes phonétiques, lue à l'Académie des inscriptions et Belles-lettres le 27 septembre 1822
Paris E. Champion 1922
788p 25cm
30. A survey of the ancient city of El-'Amarna / Barry J. Kemp and Salvatore Garfi (Occasional publications 9)
London Egypt Exploration Society c1993
112p 32cm
31. Annales du service des antiquités de l'Égypte / Ministère des travaux publics
Tome1-71
Le Caire Imprimerie de l'Institut français d'archéologie
orientale 1900-1987

【鈴木先生の卒業論文】

32. 古代エジプト都市 / 鈴木八司著 (昭和 25 年度東京大学文学部史学科卒業論文)
1950 年
169 枚 28cm

故 鈴木八司 東海大学名誉教授 略歴

1926 年 5 月 26 日	茨城県北茨城市に生まれる
1948 年度	成城高等学校文科甲類卒業
1948 年度	東京大学文学部史学科考古学専攻入学
1956 年度	東京大学大学院修了
1958 ～ 61 年	エジプト・アラブ共和国 カイロ大学エジプト学研究所へ留学
1960 ～ 68 年	在カイロ日本国大使館職員としてアスワン・ハイダム建設に先立つ ヌビア遺跡の調査を行う
1968 ～ 72 年度	東京大学教養学部文化人類学科非常勤講師
1971 ～ 74 年度	東海大学文学部助教授
1974 ～ 97 年度	東海大学文学部教授
1976 ～ 78 年度	東海大学ヨーロッパ学術センター所長 (デンマーク・コペンハーゲンへ赴任)
1978 ～ 96 年度	東海大学文学部文明学科アジア専攻教授
1978 ～ 80 年度	東海大学付属図書館長・中央図書館長
1979 ～ 82 年度	東海大学文学部史学科考古学課程主任教授
1981 ～ 88 年度	東海大学付属図書館長・中央図書館長, 11 号館図書館長兼務
1982 ～ 88 年度	東海大学王子台遺跡調査委員会副委員長
1989 ～ 91 年度	東海大学文学部長
1989 ～ 93 年度	東海大学校地内遺跡調査委員会副委員長
1994 ～ 96 年度	東海大学文学部特任教授
1997 年度～	東海大学名誉教授
2010 年 1 月 21 日	逝去 享年 83 歳

【主要な発掘調査・踏査】

- ・ユネスコ・ヌビア遺跡救済国際会議日本国政府代表 (1960 年)
- ・日本国外務省によるヌビア (エジプト・スーダン) 踏査
- ・スーダン ハルトゥーム大学によるメロエ遺跡の発掘調査
- ・出光中東調査団によるアイザーブ遺跡発掘調査 (1966 年)
- ・バハレーン, ファイラカ島などのペルシア湾岸の遺跡踏査
- ・東京大学イラク・イラン発掘調査団 (1956 ～ 65 年) による
テル・サラサート, テベ・シアルク, テベ・ギヤン他
- ・東海大学によるバルカン・小アジア諸遺跡の踏査 (1972・73 年)
- ・ブルガリア先史遺跡発掘調査 (1984 ～ 89 年)

【学外での活躍】

- ・国立民族学博物館設立準備委員
- ・古代オリエント博物館評議員
- ・中近東文化センター評議員 など

悠久のナイルと人々

鈴木八司 古代エジプトコレクション展

監 修 ————— 山花京子
(東海大学文学部非常勤教員)

編集・発行 ————— 東海大学付属図書館
東海大学校地内遺跡調査団

協 力 ————— 東海大学情報技術センター

発行日 ————— 2011年11月1日

印 刷 ————— 東海大学印刷業務課

